

私たちの町の文化財

■第7話 整備された池辺寺

1話～6話まで池辺寺にまつわる伝説や神秘などに触れてきました。今回からは史跡として整備された池辺寺について紹介します。池辺寺は広大な敷地の中で約1000年もの間場所を移りながら存在したことが分かっています。その中で池辺寺の中心が何処だったのかを示すのが金子塔なのです。金子塔は建武四（1337）年に建てられた石の笠（かさ）塔婆（とうば）で、百塚からさらに奥の西平山の斜面にあります。一部平坦な場所にひっそりと建ち、古くから修験者が往来する道沿いにあったと考えられています。四角い塔部分には全面に文字が刻まれ、池辺寺が和銅年間（708～715年）に建てられたということや本尊が正観音霊像であること、百塔が池辺寺の中心であること、そして貞元元（976）年に消失した後に仏様の導きで再建されたことなどが記されています。

中世に池辺寺が存在していたことを示し、百塚と池辺寺の関係を記した貴重な資料として現在は百塚と共に整備され、西平山公園にレプリカを置いています。本物と比べても遜色が無いレプリカですが、現在はありません。実は7月から行なわれる肥後銀行本店肥後の里山ギャラリーでの池辺寺展の為に出張しているのです。展示は7月17日から9月1日までありますので、他の池辺寺の出土品と共にぜひご覧になってください。

本物の金子塔



熊本市文化振興課 芥川太郎

